

「内閣大庫」史料文献のデジタル化・管理システムと

利活用の可能性

林玟君*

論文要旨

本稿では1937年台湾に渡り、中央研究院歴史語言研究所を収蔵する「清代内閣大庫」史料文献のデジタル化過程を紹介したい。「中央研究院歴史語言研究所内閣大庫档案」が中国明清時代（明：1368-1644、清：1644-1911）の政治制度・社会・経済・軍事・法律を研究する方面の上に重要な詔令・題奏・移会・賀表・三法司案卷・実録稿本・各種黄冊・簿冊、内閣の各庁房処と修書各館の档案や試題・試卷など大量かつ多言語（満・蒙・蔵・朝鮮・シリア等々）重要な史料文献を有している、具体的には、制詔・誥敕・題奏本章・史書・朝貢國表章その他デジタルデータベースおよび公開・発信でも史料画像二十七萬件以上のデジタルアーカイブを有している。

本報告では、この「清代内閣大庫档案」の構築に向けた取り組みについて報告する。研究では、「内閣大庫史料の由来経緯、史料復元作業・長期保存とデジタル化の方法」、「デジタル文献公開の意義と課題、データと公開の形式、データの品質保証・管理と利活用」、「内閣大庫文献データの相互運用性とオンライン教育プロモーション」という三つ軸として、デジタル化と長期管理また歴史情報研究の展開と利活用を目指している。なお、データベースにおける各種制限を改善し、デジタル歴史学と文献学に役立つシステムの革新的発展することへ繋げていきたい。

* 台湾中央研究院歴史語言研究所デジタル文化センター / Academia Sinica Center for Digital Cultures.

Digitization, Maintenance System and Utilization of the Grand Secretariat Archive

Lin, Wenjiun

Abstract

In this paper, I would like to introduce the process of digitizing the historical documents of the archives of the Grand Secretariat, being originally kept at the Grand Secretariat Storehouse in the Ch'ing imperial palace, which currently housed in the Institute of History and Philology of the Academia Sinica, started from 1937 in Taiwan. " Grand Secretariat Archive" has a lot of important historical materials for studying the political system, society, economy, military, and law of the Ming(1368-1644) and Ch'ing (1644-1911)Dynasty. There are over four thousand Ming(1368-1644) documents and more than three hundred thousand volumes of Ch'ing(1644-1911) archival materials in this collection, including a large amount of multilingual (Manju hergen, Mongolian, Tibetan, Korean language, Syria language, etc.) important historical materials such as imperial decrees, edicts, memorials, tribute document, examination questions, examination papers, rosters of successful examination candidates, documents from the offices of the Grand Secretariat, documents from the offices for book compilation, and old documents from Mukden.

The archives contain valuable source materials for institutional, social and economic historians. They record general administrative activities and legal cases, many of which cannot be found in Ch'ing legal compendia, and these huge historical materials have a digital archive of more than 27 million historical materials images, including politics, command papers, titles, historical books, documents of tribute countries, and other digital databases.

This research will report on the efforts toward the construction of this " Grand Secretariat Archives " In the research, we are aiming to develop digitization of ancient documents and historical information research as the three aspects on " collection process, methods of restoration work / preservation and digitization about historical materials of the Grand Secretariat ", " quality management and resource disclosure of digital documents ", " online education promotion activities of Grand Secretariat data." In addition, we would like to improve various restrictions in the database and lead to the innovative development of systems for digital history and Philology.

はじめに

1. 清代内閣大庫史料文献の現在

歴史学資料、史料文献、その他文化財の位置・所在・伝蔵を特定する事由と経緯情報は極めて重要である。史料文献の保存・活用においては、対象の由来・形式・史実記録を把握することは不可欠であるし、伝蔵史と文献記録は歴史学と文献学の調査研究の基礎をなすものである。

従来、歴史学・文化財の史料文献情報は、印刷物として書籍上に、主に文字的紙媒体、歴史記録を把握することが可能な状態で公開・提供されてきた。例えば、「中央研究院歴史語言研究所内閣大庫档案」[1]の史料文献が例としては、この中に明清時代の政治制度・社会・経済・軍事・法律を研究する上で欠かせない文献資料を収蔵され、個別の調査報告や論文などに付される詔令・題奏・移会・賀表だけでなく、文化財の保護の為の網羅的な文献と制度図も作成、公刊されている。

2016と2019年には、中央研究院明清档案工作室と歴史文物陳列館による『皇帝的第一道與最後一道命令』[2]、『天朝大慶・皇清盛典』[3]が刊行された。また、実はその前に、1995年から、内閣大庫のメタデータを作成し、1996年から詔令・題奏・移会・制度図などを整備、公刊されて以外、史料文献全面デジタルを行っており、そしてコンピューター、インターネットの普及とともに、内閣大庫の部分史料文献はデジタル化され、ウェブ上に移行し、DVD-ROMを作成された。

デジタル化されウェブ上に移行した内閣大庫档案の最大の利点は、新しい研究情報の更新が容易なことである。内閣大庫档案に所収される史料が多い、また、明清公文書に公開される情報は不変ではない、書籍形式の印刷物の場合、内容を部分的に更新することは

不可能なので、更新改訂版は新規に刊行し直すことになる。これには大きな労力が必要であったと思われるが、一方、ウェブ版の内閣大庫の档案では随時更新が可能である。

さらにデジタル化された内閣大庫档案では検索性が飛躍的に向上する。印刷物と異なり用紙・版面の制約がないため、データ量の許容範囲内で高解像度の档案を保持、公開することが可能であり、拡大・縮小および任意の範囲へのズームなど視認性、閲覧操作性も向上する(1998年内閣大庫ウェブ建立の事例とその後の台湾「国家デジタルコレクション計画」[4])。

ただし、制詔・誥敕・題奏本章・史書・朝貢國表章などをデジタル・スキャンしただけでは、検索性や視認・閲覧操作性は向上しない。検索可能な文字情報として内容をデータベース化し、画像より歴史情報と統合されている必要がある。2021年7月の時点では、内閣大庫ウェブで公開されている詔令・題奏・移会・賀表・三法司案卷・実録稿本・各種黄冊・簿冊、内閣の各庁房処と修書各館の档案や試題・試卷などの画像デジタル・データの公開にとどまっているのは二十七万件以上である。(図1)

それ以上、現状における課題として、新しいデジタル技術で(例えば、IIIF品質)再更新の史料文献が少しことがある。公開されている内閣大庫档案をもとに新たなデータを作成しようとする時、ユーザーは視認・閲覧した情報にもとづき、もう一度、文献の品質を確認するになる。これでは、文献の正確率が確保していることになり望ましい。信頼できるソースにもとづく一定の正確率の情報を誰もが参考し再利用できるように共有・公開されることが望まれる。

しかし、望んでいるだけでは事態は改善されない、利用可能なリソースに基づき、

新たなデジタル技術と文献品質の管理で、内閣大庫档案を再更新、公開と教育プロモーションを実践してみた。以下、その概要をまとめて報告する。

2.中央研究院歴史語言研究所内閣大庫史料文献を対象とした実践

2-1 対象

1948年、中華民国37年、12月26日、台湾の最北端、基隆の港区に軍艦が入港してきた。翌1月9日、また翌2月22日、大型貨物船が基隆に入港し、その後、以前の772個の大型の木箱が準備された貨車に積み込まれた。ゆっくり基隆駅を後にした。1月には386個、2月には1244個の木箱が同様に、陸路と鉄道と通り、牽引されていた。そもそもこれらの木箱は、中国大陸の戦乱（日本軍を侵攻したと国共内戦）を避けて北平から南遷していた故宮文物と内閣大庫文献であったが、台湾に来て、台中に移動しました。1949年4月、台中製糖工場に落ち着いたいくら5878個の木箱の総点検、内容物のリストの作成が始まった。1955年、何度も台中北溝の陳列室に行った、文物を参観した蒋介石はこの地の交通がやや不便であると感じ、台北に新たな地を求めることを決定した。内閣大庫文献には、最後は長い台中の生活を終え、台北中央研究院歴史語言研究所に永住することとなったのである。

思い起こせば、1911年、辛亥の年、清朝が倒れ、中華民国政府が樹立されて、民国5年（1916）、教育部歴史博物館を成立され、政府が宮廷の档案（敬一亭の档案）と学部大堂後樓の試卷、一緒に端門に移動しました。（図2）しがし、民国10年（1921）、歴史博物館は運営経費が足りないので、八千袋の内閣大庫文献档案が古紙回収の同懋増紙店に四千

元を売れた、再生紙になりました。その後、蔵書家李盛鐸（1859－1937）は偶然にこの事由を発見した、内閣大庫文献档案を收購した、民国18年（1929）、史語所が李氏からこの档案を購入しました。だから、現在、台北南港の中央研究院歴史語言研究所明政档案館で閲覧できる文献を見ると、各文献の右下に「歴史語言研究所之印」という小さい印が捺されている。これは、文献南遷の後、点検した際に捺されました。実は、この前に、内閣大庫文献が長い旅の苦難に耐え、顛沛流離の運命を経っていたのである [5]。

2-2 史料復元作業・保存と文献公開・デジタル化

1929年から、90年以来、内閣大庫文献の整理と修復することが引き続きしている。リスト、目録を作ることまたデータベースの建立する前に、古文献の修復が必要である。「内閣大庫档案」の修復について、以下のような流れである。

- ① 「档案を整理する」：文献档案が予備的分類をする。（図3）
- ② 「去灰、除虫」：内閣大庫档案が経年と数回の移転により、灰塵は非常に厚く、最初に灰ち塵を取り除き、そして古紙の虫を取り除く。（図4）
- ③ 「文章を鋪平する」：これは、最も時間がかかる灰と塵を除去するの継続的な作業です。
- ④ 「分類」：最初の分類は文献档案外観に基づいており、第二回の分類と登録は档案内容に基づいている。
- ⑤ 「拼湊、綴補」：慎重に文献がつなぎ合わせて、清朝機密公文書を修復する。（図5）
- ⑥ 「剩餘碎档の処理方法」：一貫性を保つことができない壊れた文書は、まだ

慎重に袋に詰められ、後で整理される。

- ⑦ 「修補と裱褙」：古くなり、壊れ、破れ（ボロボロになっている）場合は、档案文献が再び失われるのを防ぐために、いつでも表褙のことを優先する。（図 6）
- ⑧ 「副本を鈔録する」：重要な档案資料を選択し、副本を抄録する。
- ⑨ 「捺印と目録を登録する」：將修補並且裱褙完畢的文献，蓋上史語所印記，並且登録造冊。修復および印章を捺された档案には、書誌カードを登録される。
- ⑩ 「庫房に帰档する」：登録した档案を倉庫に保管する。また、保存環境条件の設定、収蔵施設を管理する

以上の修復ことが段階性に終わると、故宮博物院と同様、内閣大庫の文献档案も紙上化で、目録リストと部分档案を整備、印刷され、公開した。1953年から1967年まで、『明清史料』戊、己、庚、辛、壬、癸諸編が刊行され [6]、1959年には『明清档案存真選輯』初編が刊行された、1973年と1975年に、『明清档案存真選輯』二編と三編を出版された。1986年から、台北聯經出版社を協力した、『明清档案』1-10輯を出版され、また、11-12輯にはデジタル版DVD-ROMが作成出版され、1998年からは同内容が新たな建立する「内閣大庫档案」ウェブ公開された。これは1930年以来刊行の档案を含む文献副本を印刷版と同じ画像としてウェブ公開し、一覧表の皇帝名、公文書名から各档案の积文概要にリンクして閲覧できるもので、検索機能は限定されていたが、内容は定期的に更新されていた。

その後2001年から、新しい「国家デジタルコレクション計画」を行っていた、黒白画像が変わり、全彩画像を作成、公開された。そして、ウェブサイトの機能も更新し、またデ

ータベースの内容はテキスト・条件検索可能でリスト表示される。ただし検索結果の出力やデータのダウンロード機能はなく、研究者はもし内閣大庫档案を利用したいなら、事前提出の申し込みと通り、閲覧専用のアーカンドとパスワードを持ち、指定データをダウンロードできる。

2020年5月から9月まで、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な大流行の事態の為に、在宅勤務している多くの研究者の要るに応じて、歴史語言研究所は、「内閣大庫档案」と「漢籍電子文献資料庫」[7]ユーザーが無料で申請できると、これら2つのデータベースの承認済み一時的な個人アカウントを提供すると世界中に公開しました。そして、歴史語言研究所が既に交流機関（例え、慶応義塾大学附属研究所斯道文庫）も無償無料で「内閣大庫档案」の研究資料が使用できる。

なお、本稿作成時点(2021年7月)で、ASCDC デジタル文化センターが運営している「開放博物館(OOPEN MUSEUM)」[8]に、「内閣大庫档案」の部分「皇帝詔書」画像を公開している。(図7) CC BY-NC ライセンスの条件で、「開放博物館(OOPEN MUSEUM)」の藏品資源が、誰でも自由にアクセスし、ダウンロード利用可能にしている。さらに、毎年5月18「国際博物館日」にも引き続きデータと画像の更新や追加を行なうことを予定している。

1. 内閣大庫文献整備・公開の意義と課題

3-1 データの品質保証と管理

人文学に対して、アーカイブうを作り目的について、デジタルデータが利活用されたい以外、史料原物(文献原本)、古文書・書物・

遺物などの保存の重要性、及び研究成果の公開も大事なことである。しかし、急速に進む技術革新によって、原物資料から取り出せるデータの質と量も拡大してきた、この事実と考えられ、原物資料が無限のデータ精度(正確性)の確保も重要を視されている。

特に、漢籍写本の場合には、底本が誤写や欠損によって、意味が通じなかった部分的に欠落していたりする場合がある。この時は、校合(他の伝本と比較すること)して異同(校異とも、本文の異なりのこと)を見つけ、それに基づいて校訂(底本の本文を正しく改めること)することが大変必要である [9]。

だから、「内閣大庫档案」のデータの作成、デジタル化について、史料データを正確かつ最新の内容に保つよう努めるために、現在進行しているのが、データと画像の品質保証・管理・積文・校訂の作成体制の構築で、以下のような流れである。(図8)

- ① 最初に、スキャンシステムでデータの画像の解像度と粒度を修正すると画像の整合性をチェックする。
- ② 不明文書の有無、史料の傷みや破損の有無を確認する。
- ③ スキャンした画像の様々な問題を確認し、校閲システムに詳細の情報を記録し、報告する。
- ④ アーカイブを確立し、文献の積文・説明・校訂をする。
- ⑤ 図書館員人々の校閲品質を管理と統計する。二週間一回を検討する。
- ⑥ 文献データ品質を検査する。レビューの過程を文書化する。
- ⑦ もし文献の解釈と校訂について、問題があれば、システムに反映する。また、二週間一回を検討する。

このような流れにより、「内閣大庫档案」データの作成に関して、歴史史料文献の保

存・正確性の確保すること、活用に利用することができるようになる。

3-2 内閣大庫の利活用

(1)OPEN MUSEUM (開放博物館) で内閣大庫档案の公開

2020年から、台湾の各博物館では、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、衛生福利部疾病管制署 (Taiwan Centers for Disease Control) と文化部の「博物館、公開展覧会等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を受容するかたちで、引き続き入場制限が行われている。現状を基づいて、歴史に興味がある人々は現地に行くことができなくても家にいながらにして楽しむことができる、あるいは学習できるを考えられて、ASCDCデジタル文化センターが「OPEN MUSEUM (開放博物館)」の運営することを推進している。既に制限がある直接公開できない「内閣大庫档案」もCC-BYライセンスで部分公開され(「皇帝的第一道與最後一道命令」)、また、中央研究院の学者の方の研究成果もオープンデータ化と二次利用に促進を目指し、色々なデジタル展覧の形式に公開している。もっと、毎年5月18「国際博物館日」に、ASCDCも引き続き各研究所又は各博物館を連携して、新しいデジタル展覧を行って、蔵品を追加し、及び各分野の研究成果の更新を行なうことを予定している。

(2)「教育プロモーション」:「天朝大慶・皇清盛典」Facebookライブ動画の配信

2021年1月、本来の台湾文化部主催、台北国際貿易センターに開催予定した「台北国際書籍展覧会」について、新型コロナウイルスの感染拡大のために、展覧会はインターネット形式が変わりました。[10] 実際には、その前

に、ASCDCが新型コロナウイルス感染症の拡大の状況、外出自粛やテレワークの促進など、人々の接触のあり方が変容する、それまでの社会を一変させることを考え、人文学の対応する対策、特に、教育プロモーションにおける、歴史学と文献学の方面、PODCAST及び動画の役割を引き続き検討と企画している。

振り返って、コロナ以前の社会には、歴史文献に興味を持つ人々は実際に博物館に赴き、講座を聞き、文化財の魅力に触れることが可能であった。しかし、旅行はおろか外出自粛が迫られているコロナ禍の現在においては、動画配信と通り、歴史学と文献学の知識を視聴者に届けることができる、より重要な媒体として位置づけられる。博物館に赴くことができなくても家にいながらにして楽しむことができる、あるいは学習できる、その重要な役割を担っている動画を作ることASCDCが2020～2021この二年度以来目指す目標である。

色々な現実の現状を考えられて、また中央研究院に研修の学生たちの要望を受けて、2021年1月30日に歴史語言研究所教授研究員及び内閣大庫主任陳熙遠氏主講の「天朝大慶・皇清盛典」に、ASCDCが番組の制作を担当し、Facebookライブ動画の配信通り、内閣大庫収蔵の「清代筵宴図」赤外線検査と考証成果を公表した[11]。この番組当時間は1224名視聴者でございます。2021年1月30日の一般公開から5日後の2021年2月4日までに累計で1365回視聴された。なお、ASCDC既に調査からFacebookの中には視聴回数が多い人文学の番組も複数存在しており、この中には、歴史学・明清研究に関する潜在的ニーズは高いと考えられる。これにより、これからも視聴者の立場を考えてもっと自由の形式を運用して、「内閣大庫档案」の研究成果を公表

して予定しております。

2. これからの展望

以上のように、「内閣大庫档案」はそれぞれ文献修復・校訂及び提供する画像・データの特徴などを合わせて、紹介した。その上に、これからより多くの研究者と歴史に興味のある人々の利用を促すためには、いくつか改善を要する点がある。

まず、目録と横断検索の現状を検討することである。横断検索をする場合、通常に書誌事項がある程度標準化されている必要がある。特に、中国史、中国古典文学（及び漢籍の場合）、写本研究の場合は、同一文献資料であっても副本又は一点一点異なる情報を持っており、「内閣大庫档案」及び歴史語言研究所の漢籍資料はこの文献学と目録学の伝統があるため、単純な標準化はできない。

その点を基に、2020年からASCDCデジタル文化センターが「歴史語言研究所書誌データ作成・デジタル化・LODプラットフォーム建設計画」では、ウェブ環境に適した書誌フレームワークへの対応を長期的な課題として掲げ、この計画の中に、書誌フレームワークは米国議会図書館（LC）が2015年に始まったBIBFRAMEを導入されていると、既に要素を含む、漢籍書誌学における記述要素（ASCDC自定義）を70要素以上へ拡張したのが新しい「漢籍書誌学オントロジー」を建立し、漢籍及び古写本のデジタル化とウェブで流通が文献校訂の正確性を確保すること柔軟になっていくと考えられる。

また、モバイル環境でのインターフェースを考慮することである。「内閣大庫档案」アーカイブは、モバイル環境で訪問すると、ウェブサイトのトップページがそのまま出てくる。もし直接iPadや携帯電話でウェブサイトを訪ねて、横断検索の検索欄は表示さ

れない。今はデスクトップやノートパソコンより、スマートフォンのユーザーが多くなっていることを考えると、サイトともモバイル環境でのインターフェース(例え、Responsive Web Design や Adaptive Web Design)につき工夫が必要だと考えられる。

そして、全ての資料の原文検索ができるようにする必要がある。もちろん、中央研究院のインターネット制限、公文書管理法などによって、「内閣大庫档案」全面公開できない資料はあると考えられる。しかし、少なくとも画像で全文を公開している資料ならば、全文を釈文して、検索可能にすることは、オープンデータ化になっていく、どこでも、誰でも確認できるという便利さや、歴史資料を破損の恐れなく保存及び提供できるという点で、これからその利用は活発になっていくと考えられる。

参考文献

- [1] 中央研究院歴史語言研究所「内閣大庫档案」：
<http://archive.ihp.sinica.edu.tw/mctkm2/index.html>。(最終閲覧日：2021年08月03日)
- [2] 陳熙遠 2016『皇帝的第一道與最後一道命令』中央研究院歴史語言研究所
- [3] 陳熙遠 2019『天朝大慶・皇清盛典』中央研究院歴史語言研究所
- [4] 台湾「国家デジタルコレクション計画」(數位典藏與數位學習國家型科技計畫)：
<https://digitalarchives.tw/introduction.jsp>。
(最終閲覧日：2021年08月03日)
- [5] 李光濤 1959『明清檔案存真選輯』初輯 中央研究院歴史語言研究所
- [6] 中央研究院歴史語言研究所『明清史料』：

https://openmuseum.tw/muse/digi_object/94c3b615b7beeaf06b23fe626c6aae0a。最終閲覧日：2021年08月03日)

- [7] 「漢籍電子文献資料庫」：
<http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/ihp/hanji.htm>。(最終閲覧日：2021年08月03日)
- [8] 「開放博物館 (OPEN MUSEUM)」：
<https://openmuseum.tw/>。(最終閲覧日：2021年08月03日)
- [9] 堀川貴司 2010『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版
- [10] 「台北国際書籍展覧会・中央研究院」：
<https://evoread.ascdc.sinica.edu.tw/>。(最終閲覧日：2021年08月03日)
- [11] 「天朝大慶・皇清盛典」Facebook ライブ動画配信：
<https://www.facebook.com/ASCDCNEWS/videos/157690019283992/>。(最終閲覧日：2021年08月03日)

謝辞

本稿は2021年度中央研究院 ASCDC デジタル文化センター「歴史語言研究所書誌データ作成・デジタル化・LOD プラットホーム建設計画」の成果の一部である。本稿の作成やデータの掲載については本所の研究員陳熙遠氏と陳淑君氏の助力を頂きました。ここに記して感謝の意を表したい。

【付録】



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5



図 6



図 7

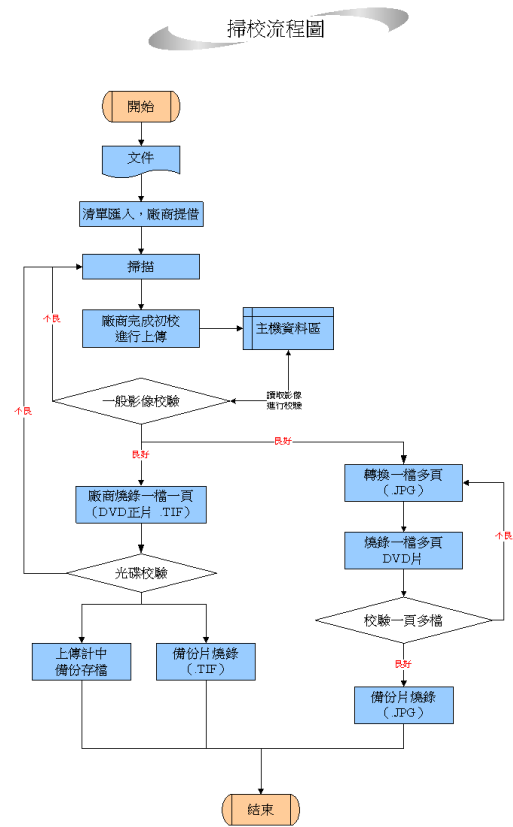


図 8